

り、暖房用のエネルギーコストは13億ドルも節減された。人口の重みをつけたディグリーデイの全国合計は、12月としては1931年以來の最低値となった。オハイオーミシシッピーより東の地域では、月平均気温が5~9°Cも平年より高かった。14の州では、少なくとも最近50年間で最も暖かい12月となった。毎日の気温については何

百もの新記録が生まれた。多くの人々は春のような天気を楽しんだが、東部のスキー場では、クリスマスから新年までの最も賑わうはずの時期に営業ができなくなった。

(注：上記各項目の番号は図中の番号に対応している。)

(気候変動対策室 真野裕三)

第23期第4回常任理事会議事録

日時 昭和59年12月18日(火) 14:00~17:00

場所 気象庁観測部会議室

出席者 山元、松本、田宮、土屋、花房、松野、浅井、山岸、能登、河村、春日

議事

1. 昭和60年度予算について

- (1) 天気と集誌については増額希望がでている。
- (2) 各委員会は次回の常任理事会の4、5日前までに事務局あて予算増額要事項があれば資料を提出する。

2. 国際学术交流について

- (1) 委員会の名称は国際学术交流に統一する。
- (2) 国際学术交流基金の作り方、基金の使用法等については1月の常任理事会に原案を提出して審議し、次のステップに進みたい。
- (3) 来秋の中国代表団の訪日に関し、理事長名で中国気象学会の会長および事務局長あてに大阪の秋季大会の日程を書簡で知らせた。中国側の希望が来次第日程の細部をつめることにする。

3. IAMAP 総会の誘致について

(1) 山元理事長から1989年の上記のことについて学術会議大気象分科会で12月5日議論した内容について、資料にもとづきおおよそ次のように説明があった。

ア. 分科会では、総会を誘致する方向で意見が一致した。

イ. 規模、場所、時期等についても討議したが、誘致することにすれば、学会の一致協力が必須であり、気象庁の支援が不可欠である。場所としては東京またはその近辺が望ましい。学会としての態度を近いうちに決定する必要がある。

(2) これに関して会計、事務局体制等について議論したが、細部について国際学术交流委員会で検討し、1月の常任理事会にはかることにする。

4. その他

第10回レーザ・レーダーシンポジウムの気象学会協賛について、協賛費が必要な場合は次回の常任理事会で検討する。